

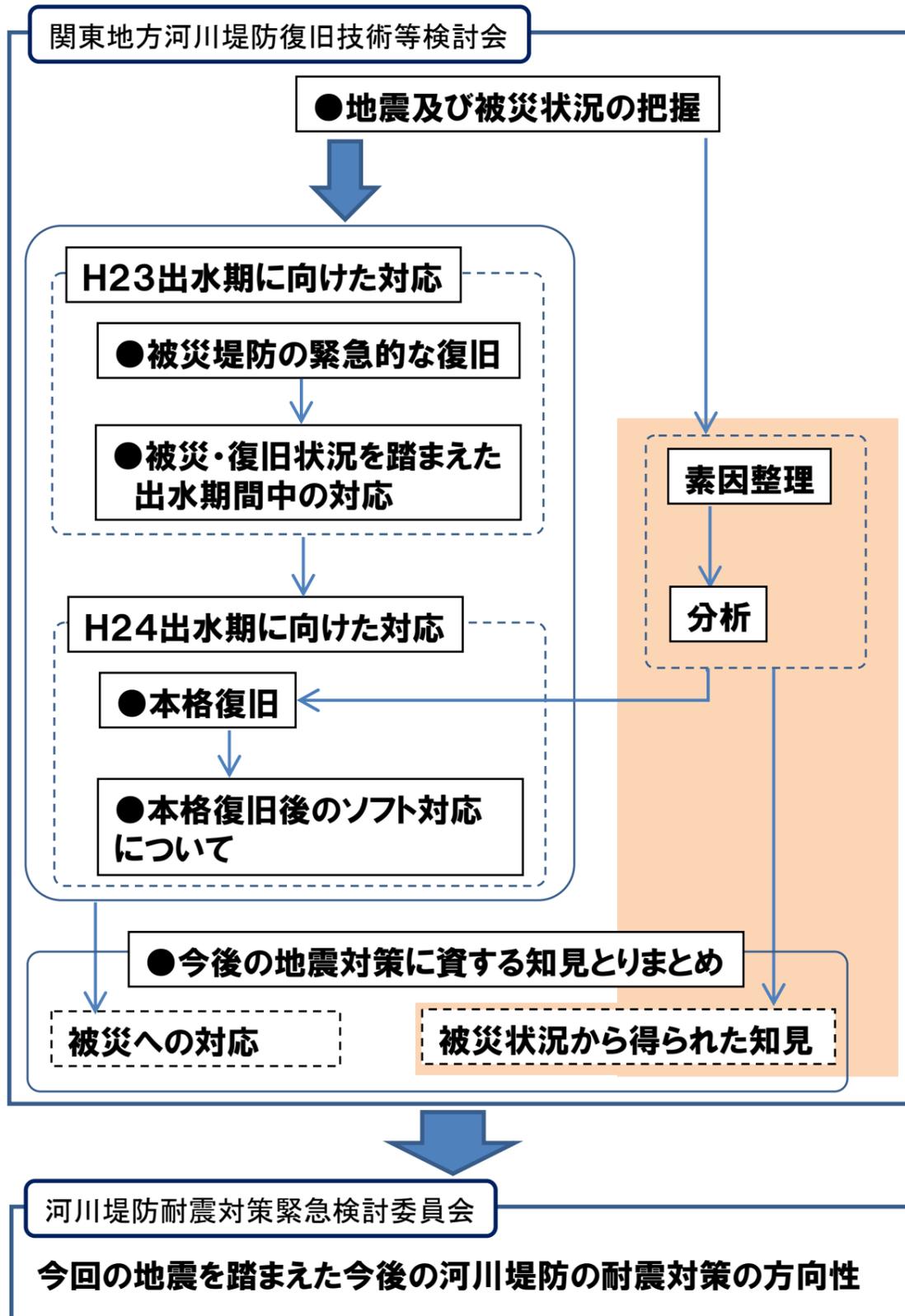
地震対策に資する知見のとりまとめに向けて

平成23年6月1日

国土交通省 関東地方整備局

1. 知見のとりまとめについて

・東日本大震災における対応や被災状況をとりとまとめるとともに、被害状況とその要因等について整理・分析を行い、今後の地震対策に資する知見をとりとまとめる。

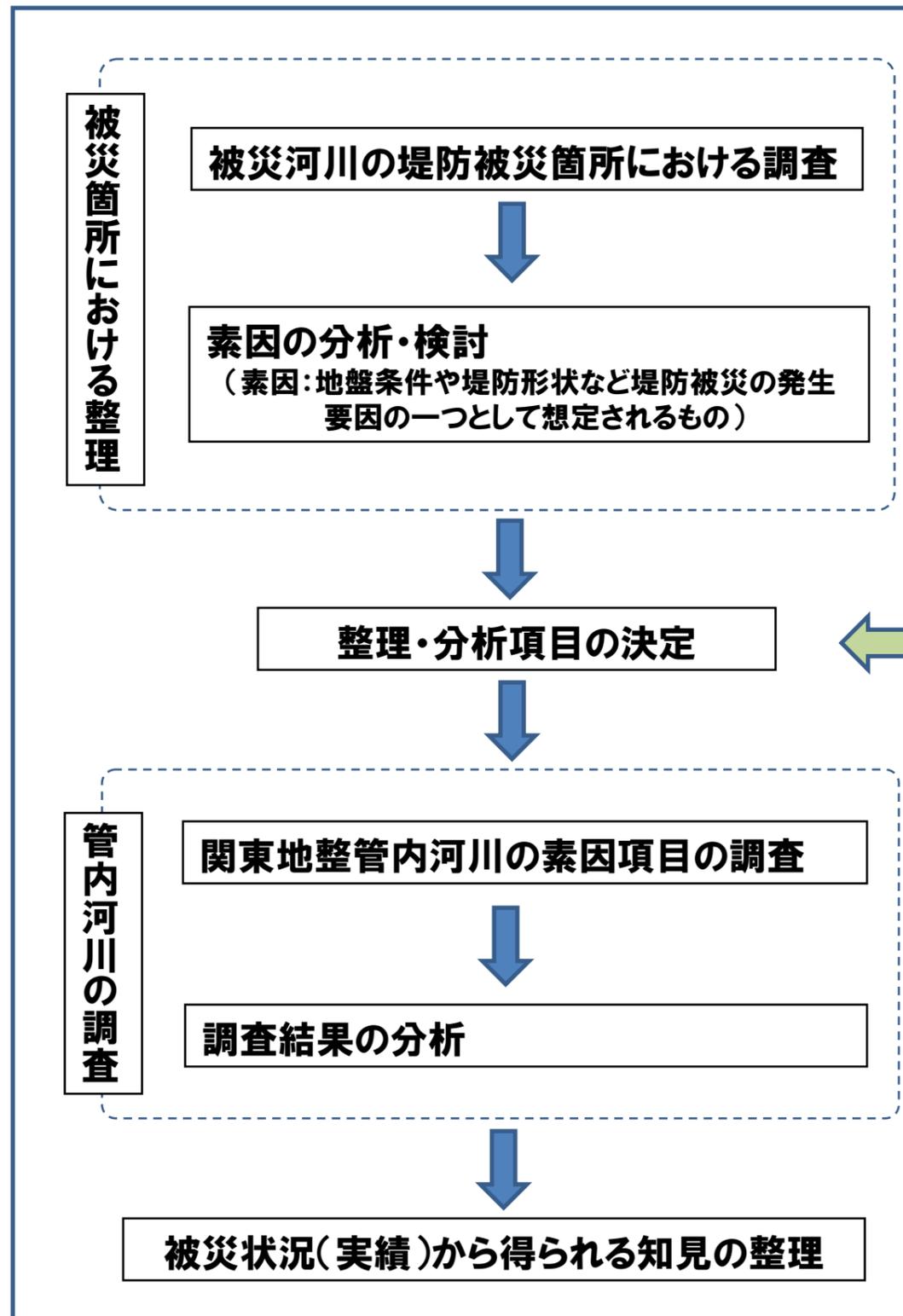


<とりまとめ項目(案)>

1. 地震及び被害概要
 - ・ 震源・震度分布
 - ・ 地震動の特性
(最大加速度及び応答スペクトル、地震動継続時間、余震の発生状況)
 - ・ 地殻変動(垂直、水平)
 - ・ 被害の概要(被災数、被災箇所、余震と被災数の分析等)
2. 平成23年度出水期に向けた対応
 - 被災堤防の緊急的な復旧
 - ・ 被災規模別にみた緊急的な復旧工法の概要
 - ・ 緊急的な復旧の実施状況
 - 被災・復旧状況を踏まえたH23出水期間中の対応
 - ・ 出水期対応の基本方針
 - ・ 洪水予報等における基準水位の見直し
 - ・ 重要水防箇所の見直し
 - ・ 河川巡視、点検のあり方
 - ・ 水防工法の的確な対応
 - ・ 出水期間中における余震被害への対応
3. 平成24年度出水期に向けた対応
 - 本格復旧について
 - ・ 本復旧にあたっての基本方針
 - ・ 既設対策工の効果
 - ・ 主な地震対策工法とその効果
 - ・ 被災要因タイプ別の本復旧工法
 - ・ 復旧工法検討時の留意事項
 - 本格復旧後のソフト対応について
 - ・ 堤体健全性の確認
 - ・ 洪水予報等の基準水位及び重要水防箇所等の再見直し
4. 今後の地震対策—今回の被災を踏まえた今後の地震対策への知見等—
 - ・ 堤防被災の分析(被災の素因の整理・分析)
 - ・ 分析結果から得られた知見
 - ・ 地震発生時の対応

2. 被災状況と要因の分析方針

・知見のとりまとめのため、下記項目で被災状況と地質や堤防の状況等の整理を行う



各整理項目とその着眼点

	整理項目	着眼点	
被災状況	1) 被災位置	・被災の形態と程度等を整理し、被災の傾向を分析する際に必要な指標。	
	2) 液状化の発生状況		
	3) 被災規模		
	4) 被災形態		
	5) 堤防沈下量		
	※堤防天端クラック深さ		
素因分析指標	6) 構造物箇所	・土と特性の異なるコンクリート構造物等の存在により被災しやすくなる可能性があるとして推定。	
	7) 堤防特性	・堤防高が高い、堤防法面の勾配が急であるなどの形そのものに被災しやすさの素因が内在されている可能性があるとして推定。 ・堤防表や裏敷高が高いと堤防内の浸潤線が高まり、堤体内の液状化が起きやすくなる可能性があるとして推定。	
	※堤防高		
	※堤防敷幅		
		※堤防表敷高(裏敷高)	
	8) 基礎地盤特性※2	・旧河道や氾濫平野など地下水が集まりやすい場所の上では被災しやすくなる可能性があるとして推定。	
	9) 被災履歴	・経験則として過去に被災した箇所は再度被災する可能性があるとして推定。	
	10) 既設対策工	・既設対策工の効果やその程度等が把握できると推定。	
	11) 重要水防箇所	・河川管理上や水防上注意を要すると認識された箇所が被災しやすい可能性があるとして推定。	
	12) 堤内地状況	・堤内地に道路、家屋及び水田がある場合に被災状況に有意な差が存在する可能性があるとして推定。	
		※耐震点検(L1照査)	照査結果と被災状況との評価が可能。
		※耐震点検(L2照査)	照査結果と被災状況との評価が可能。

着色部分は被災河川において収集済み

※印の項目は今後追加収集予定

※2 整理にあたっては、別途設置している「液状化対策検討会議」の検討内容を反映。